

「自由な発想」育む授業

中高一貫・東桜学館 3年かけ探究型学習

4月に開校した県立初の併設型中高一貫校・東桜学館の中学1年生99人が「山形」をテーマにグループ学習「未来創造プロジェクト」に取り組んでいる。合言葉は「失敗を恐れない」。試行錯誤しながら生徒の自由な発想と探究心を形にする授業だ。

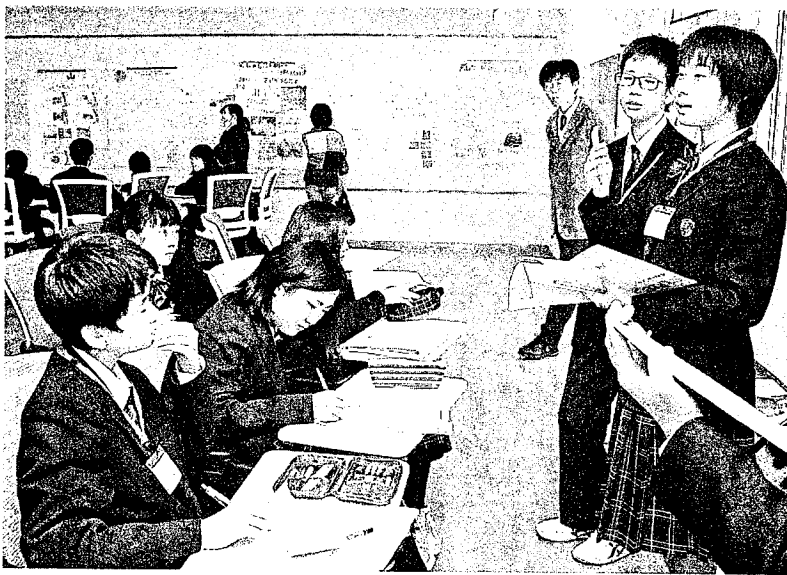
レポート やまがた

14日の未来創造プロジェクトは、研究の中間発表と意見交流会をした。3、4人のチームごとに調べたことを模造紙にまとめ、成果と課題を説明。意見を出し合ううちに新たなアイデアが次々と出てきた。

滝口あゆ海さんら3人は「クマはなぜ町に下りてくるか」をテーマに、本やインターネットなどで調べたことを発表した。食べ物、木の実の豊作・凶作の変化や、地元の住民が山を利用しなくなると動物の縄張りが広がったことなど説明し、「どうすれば下りてこなくなるのか調べたい」と語りかけた。

生徒らからは「実のなる木を山にたくさん植える」「家族連れが喜ぶ山登りプ

「山形」テーマ アイデア次々



「山形」をめぐる様々なテーマで意見交換する東桜学館中学校1年生の生徒ら＝東根市

ランを作る」「山を柵で囲う」などの意見が出た。そのアイデアを付箋に書き、ホワイトボードに次々と貼り付けていく。「意外な発想やアドバイスをもらって良かった。調べることがたくさん出てきた」と滝口さん

開校前から、県教育委員と東北芸工大は共同で未来創造プロジェクトの

「失敗を恐れない」合言葉に

んは言う。「山形の山をPRする」がテーマなのは石原みのりさんのチーム。観光客を呼び込む目玉商品にと、学

校の調理室で「蔵王おかま君ゼリー」を試作した。「クモ糸の利用」を研究する横山潮音さんらは、シロウグモの糸を集めて伸縮性を調べた。最先端の技術を学ぶため、クモ糸の人工合成に取り組む鶴岡市の企業「スパイバー」に見学に行く予定だ。アドバイザーの柚木泰彦・東北芸術工科大教授は「今はまだアイデアを広げる段階。各チームは悩みながらも前へ進んでいる」と評価する。

カリキュラムを練ってきた。「山形のこれまで、現在を見つめ、将来を考える」ことが目標で、中学の3年間を通じて生徒が自ら課題を見つけ解決する探究型学習に取り組む。1年生はグループ学習で、2年生はその成果を踏まえて個人で研究・発表する。3年生になると英語で説明する機会も設けるといふ。

東北芸工大側が伝授するのは「デザイン思考」だ。「デザイン思考は物づくりにだけではない。広く問題解決のための思考法です」。4月、プロジェクトの序盤の授業でデザイナーでもある柚木教授が新入生に説明した。課題を見つけ出したらグ

ループの中でアイデアを広げ、整理しながら筋道を探す。「大切なのはYes、And...の姿勢。他人の意見を否定せず、便乗して付け加えること」「ノーベル賞級の発見の過程には何千回もの失敗がある。失敗を恐れないで下さい」担任と東北芸工大の教員らの指導のもと、生徒らはグループに分かれ7月から研究を本格的に始めた。インタビューや現場調査の申し込みや礼状発送などもする。「山のPR」を研究する菊池萌々香さんは「調べたことを広げて深く考えるのに、デザイン思考が生かされている」と話す。生徒らは来年2月、一般公開で研究を発表する予定。(米沢信義)